



NO.915

2014/4/13

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二一四四五八  
F 四三二一四四五七



# 消費税増税に「怒り」の声!

いま市民の中で、消費税に対する「怒り」の声が渦巻いています。

「年金は去年も下がり、今年も下がった。暮らしを守るため消費税が上がる前に、コマやティッシュペーパーなどを買いだめした。だけど、来年も年金が下がるし、どうしたらいいんだ」

「安倍首相は、アベノミクスで景気が回復したから消費税を8%に引き上げたというが、何をふざけた話をしているのだ、我々のような低所得者には、そんな恩恵は何もない」

「円安でガソリンをはじめ日用品などの物価は上がる一方だ。その上、消費税の増税だ。さらに、市の水道料金も平均で8%上がる。踏んだり蹴ったりだ」

どの声も深刻で身につまされるものばかりです。

また、美容室を営む方は、「今回、消費税を転嫁すべきか、やめた方がいいか悩んでいる。格安の美容室が近くにあるので、8%を転嫁すると、お客さんが来なくなる。だけど1年半後には10%になるし、自腹を切るだけの力もない。これでは廃業するしかないかもしれない」と嘆いています。

## 消費税に頼らない道がある

日本共産党は、消費税に頼らず経済・財政危機を打開する道を示しています。

①「応能負担」の原則にたった税制改革  
②国民の所得を増やす経済改革  
を提案し、消費税を5%に戻し、将来的には廃止する展望を持っています。この改革を実施するためには、「財界中心」から「国民の暮らし」を重視するべきです。

民の暮らし第一へ切り替える政治の大転換が必要です。

この声を国民の中へ大きく広げていくことが重要だと、日本共産党はかんがえています。

## 濤沸湖の重機転落事故問題で報告

3日に開かれた市議会の生活福祉委員会、濤沸湖浚渫工事の埋没重機について、生活環境課から報告がありました。

河川管理者である北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部が浚渫工事を計画したものの、

網走市へは、3月4日に、濤沸湖水鳥・湿地センターに6日から作業開始する旨の連絡があった。作業開始した6日は重機が走行路を整備。7日、午前11時頃に1台目の重機が埋没し、続いてもう1台も埋没。3月26日に湖外へ移送完了したとの説明がありました。

日本共産党の松浦議員は、「ラムサール条約に登録されている湖沼であり、野生動物や自然環境への影響が出るところで工事をすることは、あまりにも無謀な工事のやり方ではないか」

「そもそもがなっていない。非常に重要な問題として道や環境省に申し入れるべきだ」

「2度とこのような事故を起こさないよう教訓にすべきだ」と強調しました。

## いっせいで東奔西走

走市出身の狩野亮選手が網走市特別栄誉賞贈呈式・市民祝賀会が開かれ参加しました。

前回のバンクーバー五輪に続く快挙に多くの市民が祝いに駆けつけ、授賞式のと懇談がはじまり、2個の金メダルを持参した狩野選手は多くの市民と一緒にカメラの前で様々なポーズにに応じていました。特別栄誉賞贈呈式後の挨拶で

「初めての五輪は、無我夢中で参加という経験を得ました。前回のバンクーバーでは予想外というか、一生懸命滑った結果が金メダルでした。今回は、金メダルを取った後の目標のない喪失感で3年間は目標は定まらなく滑っていたが、ソチに向けアスリートとしての狙って組み立てた結果が金メダルでした。人間的にも大きな経験をえました。今後は、アスリートとしても、人間として人間性をもっと高めて競技に臨みたい」と今後に向けての抱負を語りました。

三つのオリンピックをとおして、一皮も二皮もむけた狩野選手。障がい者アスリートの先達者としての活躍を期待したい気持ちで会場を後にしました。

## 武器輸出をめぐり

安倍政権は、武器輸出を自由化する閣議決定をします。憲法の平和原則に基づき武器輸出を禁止してきた歴代政権の政策を投げ捨て

「死の商人」国家への道に踏み出すものです。武器輸出3原則は、1967年に政府が表明したもので止されている国③紛争当事国への武器輸出の禁止です。1976年には、それ以外の国へも慎重方針を打ち出し、国是となってきました。

その後、アメリカへの武器技術供与など21項目もの「例外」がつくられましたが、原則禁止の方針は変わりませんでした。

ところが今回閣議決定した「防衛装備移転3原則」は、政府の一存で、この国是を投げ捨て、武器輸出を原則解禁とする内容です。日本共産党の山下書記局長は、「半世紀近くわたくしに許すことができない」と批判しています。国民世論で許さない闘いをしましょう。

## 流水

最近、政治家や学者たちの発言に、多少のことでは慣れつつもなってしまう。私たちが耳にも、驚くべき話が聞こえてくる。

都知事選に小泉氏に押されて出馬した細川氏、開口一番、「原発以外はだれが知事でもおなじ・・・」ととんでもない発言。▼もつと驚いたのは「反対派支援の学者の『原発論』は致命的に幼い」と攻撃し、「原発をトイレ無きマンションとるのは間違い。四十年間冷やすうちに放射線も発熱量も千分の一くらいになる。それをガラス化した廃棄物は十年保管が必要なのではなく、十年保管が出来るということ。技術もある」「敦賀の活断層も十年、百万年動いていないから、あそこに埋めてもいい。」「原子力エネルギーは自然エネルギーの根源的のものであるから、恐れることは無い」等々。▼いやはや、これが一流大学の教授たちが本気で考えていることとは夢にも思えないのではないでしょう。原発の新たな神話を作る筋書きの一環なのでしょう。▼「フクシマ」を忘れさせようとする「政府、財界のたくらみ」を今こそ押し押し返さなくてはなりませんか。(K)